

製品名: ATF6A ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21596**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:75kD;Observed MW:100kD

抗原情報

遺伝子名	ATF6
別名	
遺伝子 ID	22926.0
SwissProt ID	P18850
免疫原	ヒト ATF6 の組み換えタンパク質

背景

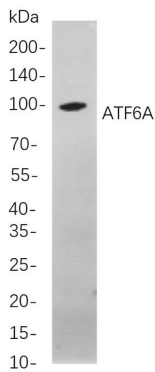
細胞局在: 細胞質。この遺伝子は、小胞体 (ER) ストレス時に小胞体タンパク質応答 (UPR) の標的遺伝子を活性化する転写因子をコードする。転写因子であるにもかかわらず、このタンパク質は ER に埋め込まれた膜貫通タンパク質として合成されるという点で珍

しい。ER ストレスセンサー / トランスデューサーとして機能し、ER ストレス誘導性タンパク質分解後、ER シャペロンをコードする遺伝子のプロモーター領域に存在するシス作用性 ER ストレス応答エレメント (ERSE) を介して核転写因子として機能する。このタンパク質は、静止期の扁平上皮癌細胞では生存因子として同定されているが、増殖期の扁平上皮癌細胞では生存因子として同定されていない。この遺伝子の多型と糖尿病との関連性については、異なる集団において相反する報告があるが、別の多型は血漿コレステロール値の上昇と関連付けられている。この遺伝子は、嚢胞性線維症の潜在的な治療標的となる可能性も考えられている。 [RefSeq 提供、2011 年 8 月]

研究分野

-

画像データ



A549 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。ATF6A ウサギ mAb を用いた。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。